

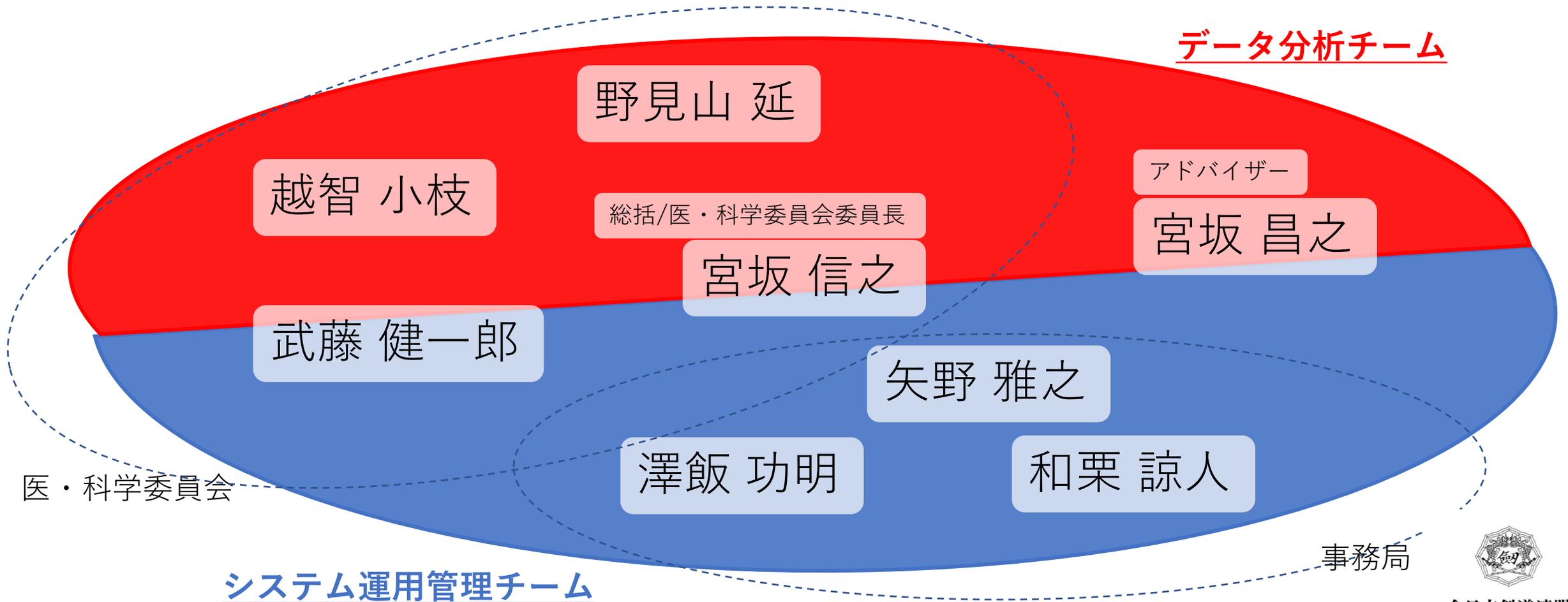
医・科学委員会

新型コロナウイルス感染症報告システム



メンバー

- データ分析チーム：データ分析, 調査項目策定, ガイドライン策定・改定の検討など
- システム運用管理チーム：フォーム作成, データ共有サポート, 連盟内調整(HP等活用)など



調査項目

- 年齢・性
- 発症年月日
- 発症行事（稽古、試合など）
- 発症内容（初発症状、続発症状）
- 確定診断（PCR法、迅速抗原検査法）
- COVID-19重症度（軽症、中等症、重症）
- 入院の有無
- 転帰（軽快、入院したら退院・死亡）
- 面マスク、シールド着用の有無
- 3密回避対策の有無
- 通風・換気の状態
- 手指消毒の有無
- 発症機会（会食、稽古、その他）
- 基礎疾患の有無
- 稽古指導による感染の有無
- その他



COVID-19情報収集システム報告（中間）

(12. 25. 2020～1. 31. 2022)

	数	注
報告件数	85件	昨年8月は20件、9月が16件 本年1月に急増中(34件)
発症者数	344名	昨年8月が93名、9月が73名 本年1月に急増中(142名以上)
死亡者数	0	
重症度	軽 症 329名 (95.6%) 中等症 4名 (1.2%) 重 症 0名 (0.0%) 不 明 11名 (3.2%)	軽症がほとんど 一部は剣道行事が発症の機会を 否定できない
入院件数	9名	すべて退院
発症機会が推測されている場合	11名は通風・換気不足	ガイドラインの改訂により対処
マスク及びシールド着用	シールド着用していないもの6名	ガイドラインの改訂により対処



コロナ報告システムの中間報告（1）

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は最近、特に急増している
- ただし、まだ感染ピークには到達していない
- 本症予防のためにワクチン接種2回を行うことはきわめて重要である
- ブースター（追加）接種も機会がきたらすみやかに行うことを奨励する
- 3密回避、マスクの常時着用、面装着時の面マスクとシールドの着用、体育館・道場及び更衣室の換気・通気、手指などの消毒、などの感染対策は従来通り励行する

コロナ報告システムの中間報告（2）

- 剣道の稽古が直接、発症の機会となっている可能性を完全に否定することはできないので、さらに一層の複合的な感染対策を同時並行的に行う
- オミクロン株は感染性が高く、マスクだけでは防ぎにくいエアロゾル（マイクロ飛沫）感染が実際に起きている。これを防ぐには、これまでの対策に加えて、道場などでの通風・換気の励行が必要である。→具体的な方策を指示
- 発熱、全身倦怠感などの自覚症状がある場合は、検査結果が不明でも稽古に参加すべきではない

コロナ報告システムの間接報告（3）

- 共同生活、食事、更衣などの剣道行事に関連する行為が感染のきっかけになっている可能性は十分にあり、一層の注意喚起が必要であると思われる
- 今後の動向を注意深く見守ることが必要である